

国交振会報

Kanramachi International
Friendship Association

発行 公益財団法人甘楽町国際交流振興協会
発行日 2014年10月20日
事務局 甘楽町役場企画課
TEL 0274-74-3131

No.83



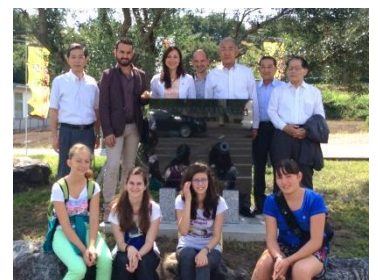
チェルタルドの皆さん、ようこそ甘楽町へ！



滞在中、第一中学校やかんら保育園の町内施設見学、地域密着型特別養護老人ホームシルク・おばた、こんにやくパークなどの町内視察、第15次チェルタルド市訪問甘楽町中学生国際交流研修団との交流会等を行いました。交流会では、ら・ら・かんらにて、パスタ・いなり寿司・天ぷら・たこ焼きの料理を作り、その後折り紙と書道を体験して交流を図りました。

イタリアチェルタルド市から第8次となる青年使節団7名(団長(ジャーコモ・クチーニ市長)、随員2名、団員4名)が、7月28日(月)に来町し、8月3日(日)まで滞在しました。

団員は、6泊7日のホームステイで文化や生活習慣の違いを学びました。



30周年記念モニュメントの前にて



受入家庭 郡山 哲さん宅



受入家庭 山田 剛さん宅

また、受入家庭の人と一緒に上野動物園、浅草なども見学し、日本の歴史や文化に触れました。

町議会では「歓迎議会」を開催し、両市町の交流をさらに推進していく決議書を可決後、県議会議員からクチーニ市長、茂原町長、チェルタルド市国際文化交流推進協会オルシ会長、甘楽町国際交流振興協会富岡理事長に決議書が渡されました。

お別れ夕食会では、バーベキューをして第15次中学生研修団等と交流を深めました。夕食会の最後には、4名の使節団員による歌とダンスの披露があり、甘楽町の団員と歌「おしえて」を日本語で歌い、出席者も一緒にダンスを踊って大変盛り上がりました。新たな友情が芽生えた甘楽町・チェルタルドの団員たちは、2週間後に予定されているチェルタルド市での再会を誓い、笑顔でお別れをしました。



第一中学校訪問



かんら保育園訪問



ら・ら・かんらにて料理交流会



書道体験



歓迎議会



国交振への決議書



県庁表敬訪問



お別れ夕食会では日本語で歌を披露



別れの朝

第15次チェルタルド市訪問 甘楽町中学生国際交流研修団

2014. 8.15～8.25

ITALIA

～新たな友情の夏～



サン・ピエトロ広場にて

第15次チェルタルド市訪問中学生国際交流研修団は、8月15日(金)～25日(月)、イタリアを訪問しました。15日早朝、甘楽町を出発し、オランダで乗継後、イタリアの首都ローマに無事到着しました。翌16日は、ヴァチカン市国(ヴァチカン美術館・システィーナ礼拝堂・サン・ピエトロ大聖堂)とローマ市内(ナヴォーナ広場、コロッセオ、スペイン階段)を見学し、偉大な芸術家の絵画や彫刻を鑑賞、古代ローマ帝国の威厳を残す壮大な建造物に圧倒されました。

17日、ローマ市内のトレヴィの泉、真実の口、カタコンベを見学後、待望のチェルタルド市へと向かい、希望に満ちた6泊7日のホームステイが始まりました。



感動の再会



家族全員で大歓迎



協会からお揃いの帽子をいただきました



ウフィッツ美術館にて

今回の中学生研修団は、チェルタルド市国際文化交流推進協会が中心となり、市と協力しながら受入していただきました。

受入家庭では、海やサン・ジミニャーノ等色々な場所へ出かけたり、一緒に料理を作ったりして交流を深めました。どの家庭も深い愛情を注いでくれ、団員たちは、「毎日楽しくて仕方ない」「一日が短く感じる」と目を輝かせながら話していました。また、滞在中に、電車でフィレンツェへ出かけ、受入家庭の方々に見守られながら、ウフィッツ美術館、ポンテ・ヴェッキオ等を見学しました。



市・協会との固い握手

新たな友情を深めた日伊の子どもたちは、最終日のお別れ夕食会で、いつまでも笑顔が絶えない時間を過ごしていました。最後に団員から歌「花は咲く」と踊り「ソーラン節」を披露すると、会場は拍手が鳴りやまず、心が通い合う温かい空気で包まれました。

楽しい日々はあっという間に過ぎ、チェルタルド市を発つ別れの朝、団員たちは、込み上げる涙をこらえながら感謝の気持ちを伝え、お世話になった方々の姿が見えなくなるまでバスの中で手を振りました。その後、イタリア第二の都市ミラノを見学し、25日、研修団は全員無事に甘楽町へ帰ってきました。



団員代表挨拶
(松井亮くん)



法被とてぬぐいをプレゼント



ありがとう!



また会おうね!



ミラノ「ガッレリア」にて

今回の研修で、異国の歴史や文化に肌で触れ、イタリアの生活習慣を学び、心と心が触れ合う友情を育んだことは、中学生にとって大きな財産となりました。若者たちのお互いを理解しようとする気持ちや弾けるような笑顔は、2つの市町の距離をさらに縮めてくれました。この友情が両市町を結ぶ絆をさらに深めていくことを願っています。会員の皆様のご理解ご協力により、今年度も交流事業が無事に行えましたことを心より感謝申し上げます。